

未来へ！
みなと大作戦

次なる50年に向けて

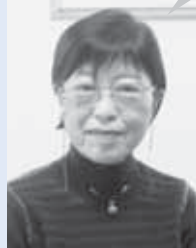
詳細 企業立地課 ☎32-6438 苫小牧港管理組合 ☎34-5904



苫小牧の発展や、北海道の経済を支えるなど、生活になくてはならない苫小牧港。その歴史とともに、新たな魅力を伝えるために展開してきた『未来へ！みなと大作戦』も締めくくりとなりました。今回は、大作戦の取り組みに参加した方の感想と、これからの苫小牧港への期待を聞きました。

出前講座で
学びました！

「ロマンあふれる
素敵な場所」



慈照寺
すどう ふみよ
須藤 文世 さん

苫小牧港が50周年を迎えるということを知り、港について調べてみると私は苫小牧市民でありながら認識不足だったと実感し、出前講座に申し込みをしました。北海道の流通をつかさどり、整備なども良く行き届いた、大変大きな規模の港湾だと知ることができました。そして、実際に港に足を運んでみるとロマンをすごく感じました。「あの船たちがはるか遠い外国と交流するんだな」と思い、とりこになりました。

フェリー見
学しました！

「大きな船がもっとたく
さん来るといいな！」



拓勇小学校3年
いこましょうたろう
生駒 翔太郎 くん

僕は、港が50周年を迎えた去年、社会科授業でフェリー見学会に参加しました。フェリーの中を見たのは初めてで、その大きさに驚き、フェリーの中にはたくさんの設備があって知らないことをたくさん知ることができました。これからはフェリーのような大きな船がもっとたくさん出入りするような港になってくれたら嬉しいです。



▲出前講座 小学生の子どもから老人クラブの会員まで幅広く、820人を超える方へ出前講座を開催しました。



▲フェリー見学 ショートクルーズをはじめ、4回の見学会を開催。参加者にとって、貴重な体験となりました。

出前講座で
学びました！

「昔から今へ、
どんどんと成長！」



拓勇小学校3年
いむかい みゆう
井向 美釉 さん

出前講座や港の紙芝居の授業で、一番印象に残っていることは苫小牧港が昔に比べてどんどん成長している点でした。その話を聞いて、自分でも港について調べてみたいと思うようになりました。これからは、キラキラ公園のような、たくさんの人が遊びに行きやすい場所が多くなると良いと思います。

大作戦を展
開しました！

「まちを支える原動力」



未来へ！みなと大作戦
プロジェクトチーム
企業立地課
おおはし とおる
副主幹 大橋 透

今年1年間、開港50周年を市民の皆様と共に盛り上げるべく、さまざまなイベントなどでPR活動をしました。私も苫小牧港の歴史をあらためて振り返り、これまで果たしてきた役割の大きさを再認識させられた一人です。苫小牧港はこれまでも、そして100周年を迎えるときにも今以上にまちを支える大きな原動力であると信じています。



▲海王丸寄港 海の貴婦人と呼ばれる海王丸が寄港。セイルドリルの時には、青空に白い帆が、美しく輝きました。



▲Sea級グルメ 日本16カ所のご当地グルメを楽しむイベントを開催。海王丸寄港と合わせ、キラキラ公園は、6万3千もの人で賑わいました。

1年間ありがとうございました

大作戦では、これまでの歴史を振り返るとともに、多くの方に港の新たな魅力を知ってもらいました。特に、次世代を担う子どもたちに愛される港、誇れる港として、引き継ぐことを目的とした、数多くの取り組みをしました。この一年間の取り組みは、さらなる港に向けてのスタートです。

港の新たな50年に向け、ともに未来へ ~Gateway to the future~



署が一体となって、市民の安心・安全な暮らしを守るため、歩みを止めることなく、まちの将来に向けて、力強く前進してまいります。

若い職員たちの、あっと驚くような斬新な発想力と、それを受け入れる柔軟な組織が、市民に喜ばれる市役所の実現につながると確信しています。すべての部署が一体となって、市民の安心・安全な暮らしを守るため、歩みを止めることなく、まちの将来に向けて、力強く前進してまいります。

市長コラム

進取果敢

苫小牧市長 岩倉博文

若い力で さらに前進

1月28日、苫小牧市職員改革・改善制度の発表会と表彰式がありました。この制度は、私が市長に就任してからすぐに、時代に合った市役所を作るため実践した取り組みのひとつです。常に問題意識を持って業務を見直し、前例に捉われず改善を実行していく。この創造的作業を習慣として行える若い職員を育てることが、組織変革につながると考えたからです。今年度は、市の重要課題である市民の安心・安全に関わる防災などの提案や、4月に新院長を迎えリスタートする市立病院職員チームによる実践事例など、組織横断的に活用できる提案が幾つもありました。提案の着眼点や主張の整理・組み立て、プレゼン技術の向上などから、クリエイティブな人材が育ってきているという手応えを感じています。